105-258

問題文

23歳女性。医療系大学の学生で現在、学外実習を行っている。最近、実習先への電車移動中に腹痛を伴う下痢を経験するようになり、電車を利用するのが怖くなった。近医を受診し精密検査を受けた結果、下痢型の過敏性腸症候群と診断され、以下の処方による治療が行われている。

(処方1)

ビオフェルミン錠剤^(注) 1回1錠(1日3錠)

1日3回 朝昼夕食後 7日分

(注:1錠中にビフィズス菌 12 mg を含有する)

(処方2)

メペンゾラート臭化物錠 7.5 mg 1回2錠 (1日6錠)

1日3回 朝昼夕食後 7日分

問258

2週間経っても症状の改善がみられなかったため、薬剤の追加が検討された。追加薬剤の候補として適切なのはどれか。2つ選べ。

- 1. ドンペリドン錠
- 2. ロペラミド塩酸塩カプセル
- 3. メサラジン錠
- 4. チキジウム臭化物カプセル
- 5. ラモセトロン塩酸塩口腔内崩壊錠

問259

候補となるそれぞれの薬物の作用機序として正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. ドパミンD 2 受容体遮断
- 2. セロトニン5-HT 3 受容体遮断
- 3. オピオイドµ受容体刺激
- 4. ロイコトリエンB₄産生阻害
- 5. アセチルコリンM 3 受容体遮断

解答

問258:2.5問259:2.3

解説

問258

問 259 と合わせて解説します。

問259

問 258 について

選択肢1ですが

ドンペリドン(ナウゼリン)は、吐き気止めです。不適切と考えられます。

選択肢 2 は妥当です。

ロペラミド(ロペミン)は、止瀉薬です。 オピオイド µ 受容体を刺激 することにより、腸運動を抑制しま

す。

選択肢 3 ですが

メサラジンは、5-アミノサリチル酸です。抗炎症薬です。不適切と考えられます。

選択肢 4 ですが

チキジウム臭化物カプセルは、抗コリン薬です。既に処方されているメペンゾラートが、抗コリン作用により、消化管れん縮を抑制する薬です。作用機序が重複になるため、適切ではないと考えられます。

選択肢 5 は妥当です。

ラモセトロン(イリボー)は、 $\mathbf{5} - \mathbf{HT}_{\mathbf{3}}$ 受容体遮断 作用を示します。下痢型過敏性腸症候群の症状を改善します。

以上より、問 258 の正解は 2,5 です。 問 259 の正解は 2,3 です。